

#### 4.5 注目すべき種の確認状況

##### 【内水面漁業と関わりのある鳥（カワウ）の確認状況】

(鳥類調査)

・ **カワウを6河川すべてで確認しました**

近年、カワウがアユ、アマゴ、ニジマス等を食害し、内水面漁業に被害を与えている例が全国で見られます。

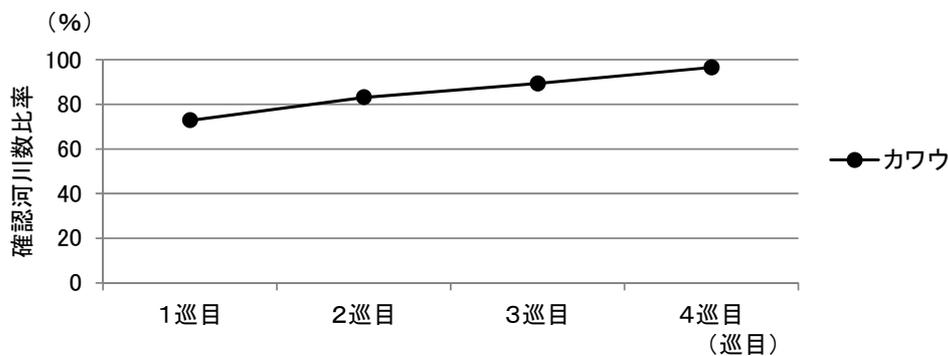
ここでは、カワウの確認状況を整理しました。

カワウは、今回とりまとめを行った6河川すべてで確認されました。

(資料掲載：4-37～4-38 ページ、4-42～4-43 ページ)

1～4巡目調査の確認河川数の比較

種類	1巡目 (81河川)	2巡目 (118河川)	3巡目 (122河川)	4巡目 (115河川)
カワウ	59河川 〔72.8%〕	98河川 〔83.1%〕	109河川 〔89.3%〕	111河川 〔96.5%〕



※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。

※ 1～3巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等について真正化され、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。

※ ( ) 内は調査実施河川数を示す。

※ [ ] 内は確認河川数の調査実施河川数に対する割合 (%) を示す。

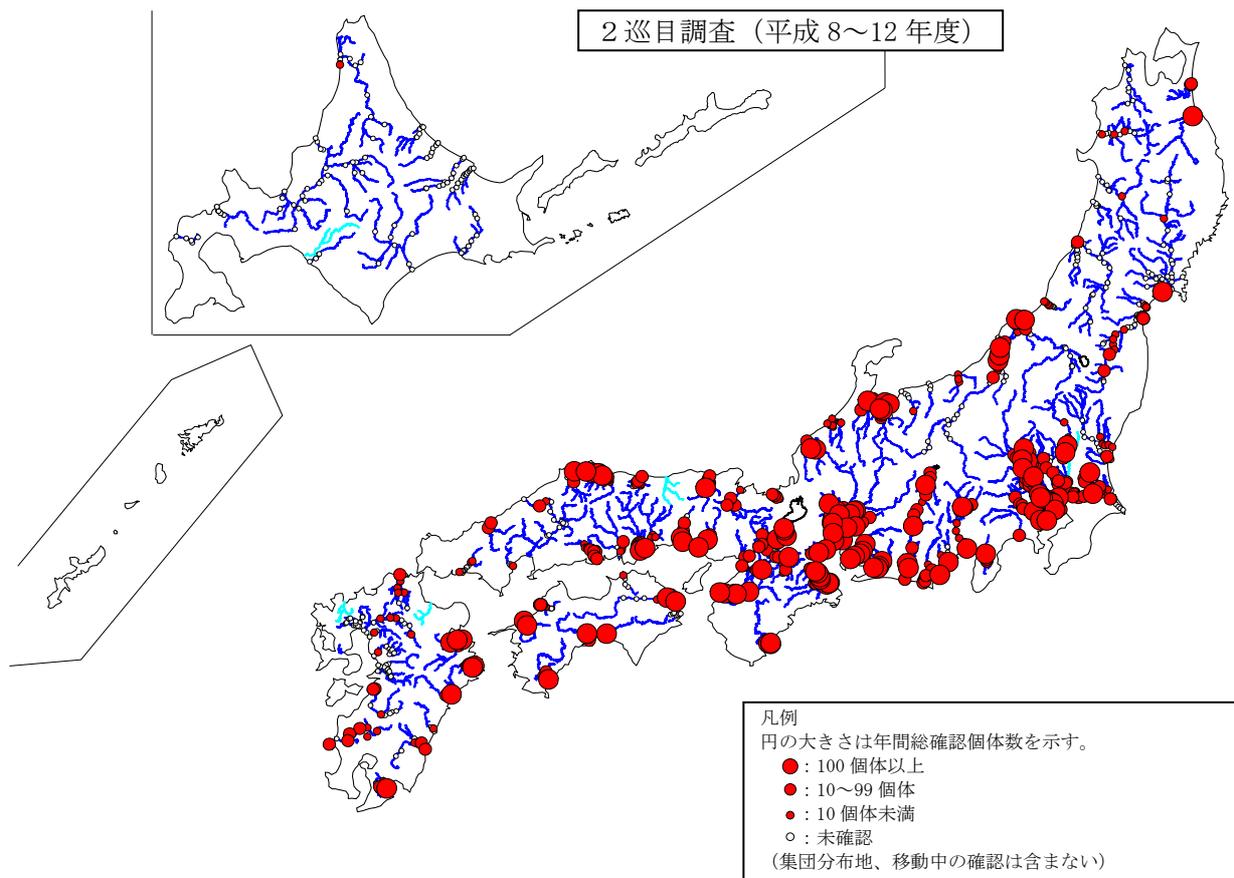
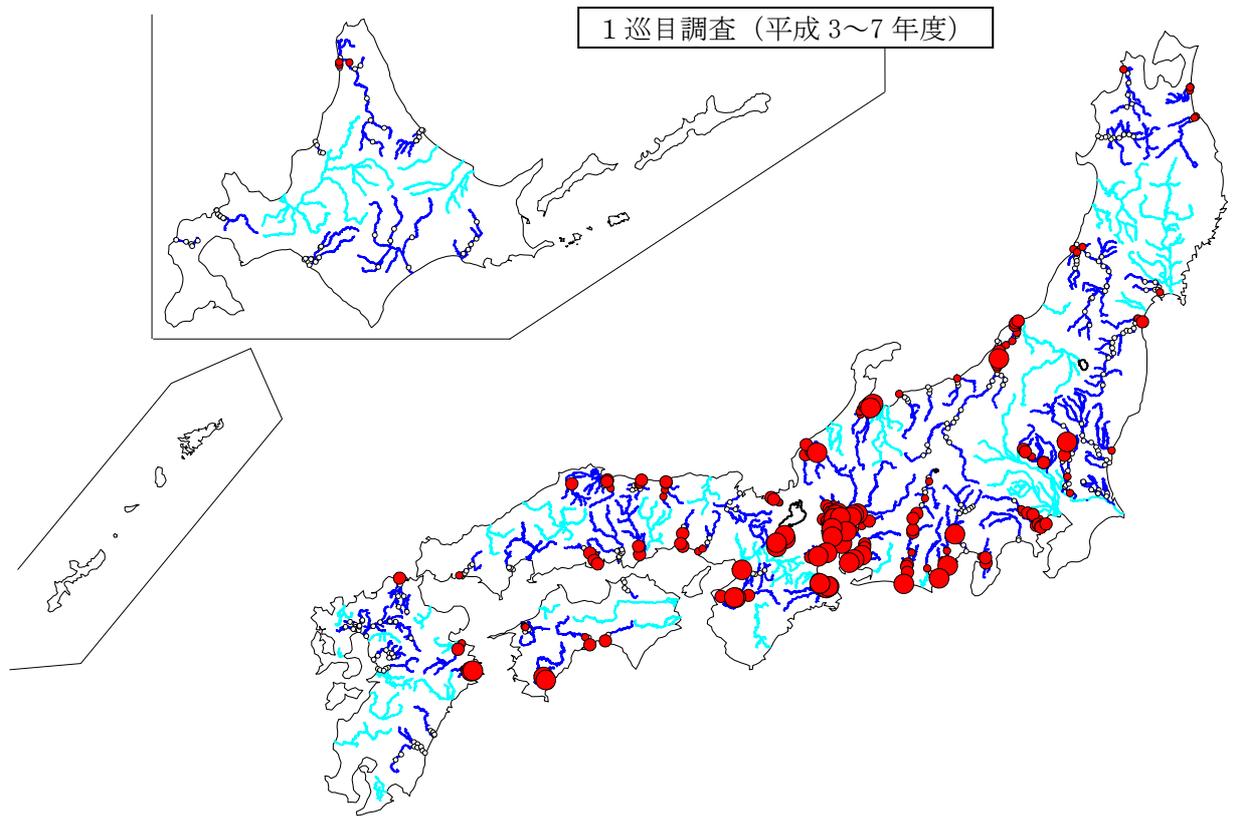
※ 4巡目からは、調査方法を調査地区対象のラインセンサス調査から河川全体の調査箇所における分布の確認を主としたスポットセンサス調査に変更した。

カワウは、内湾部や内陸の淡水、河川、湖沼などに生息し、その近くの林などで集団繁殖します。一年を通して群れで生活し、水かきのついた足を使い、尾を舵にして巧みに潜水し、魚類や甲殻類を捕らえます。一時は個体数の減少が心配されたこともありましたが、近年増加し、一部の地域では放流されたアユ、アマゴ、ニジマス等を食害し、内水面漁業に被害を与えている例も知られています<sup>注1)</sup>。

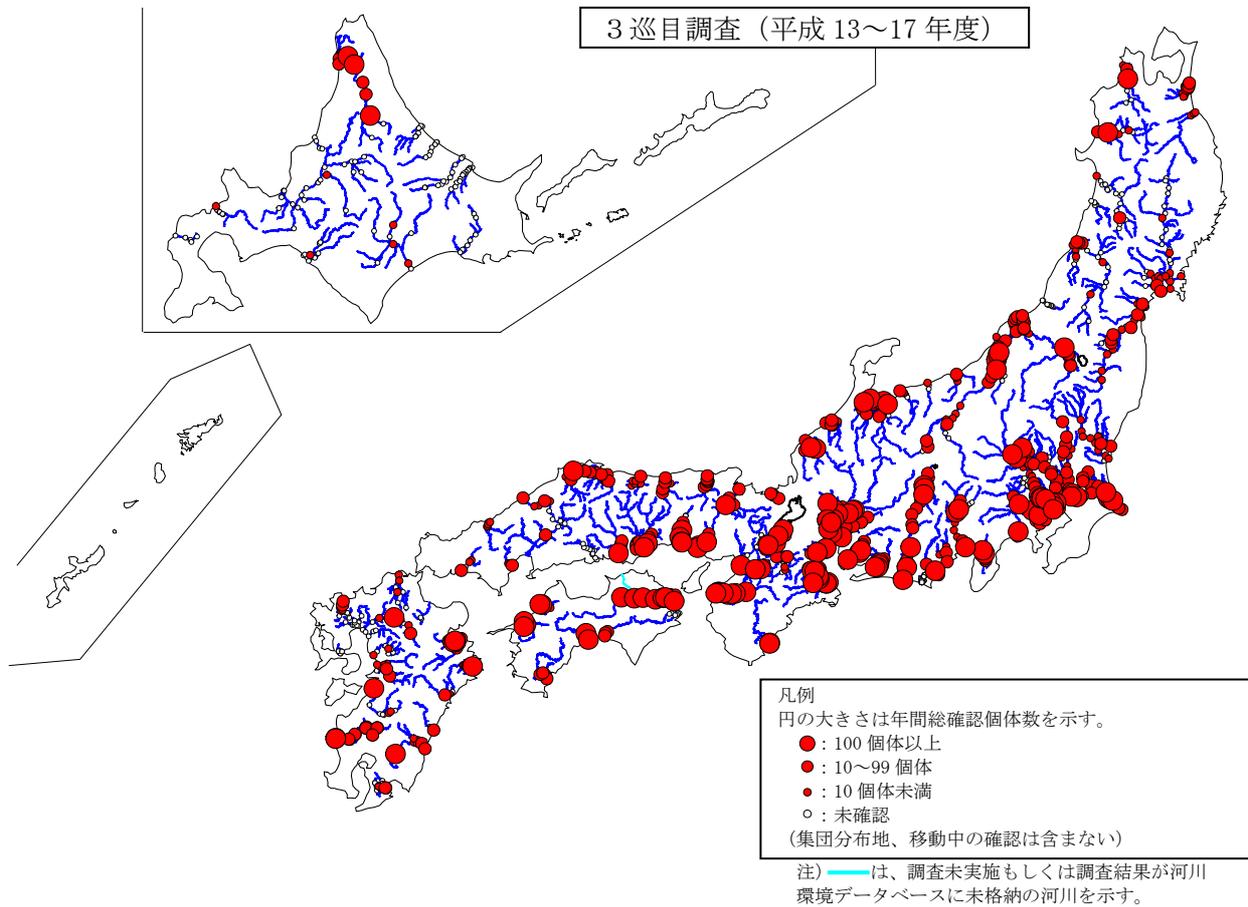
カワウは、今回とりまとめを行った6河川のすべてで確認されました。確認範囲をみると、ほとんどの河川で河口から上流まで広範囲で確認されましたが、特に河口から下流にかけて確認個体数が多い傾向がみられました。

1～4巡目調査全体での確認状況を比較すると、調査実施河川数に占める確認された河川数の割合は1巡目調査から4巡目調査にかけて漸増しています。1巡目から2巡目、3巡目にかけて、中部地方を中心に南北に分布を広げ本州以南のほとんどの河川に分布するようになり、確認個体数も増えています。4巡目調査においても、北海道地方の湧別川、網走川、後志利別川、沙流川、東北地方の子吉川で、河川水辺の国勢調査では初めて確認され、北方に向けて分布の拡大傾向がみられました。

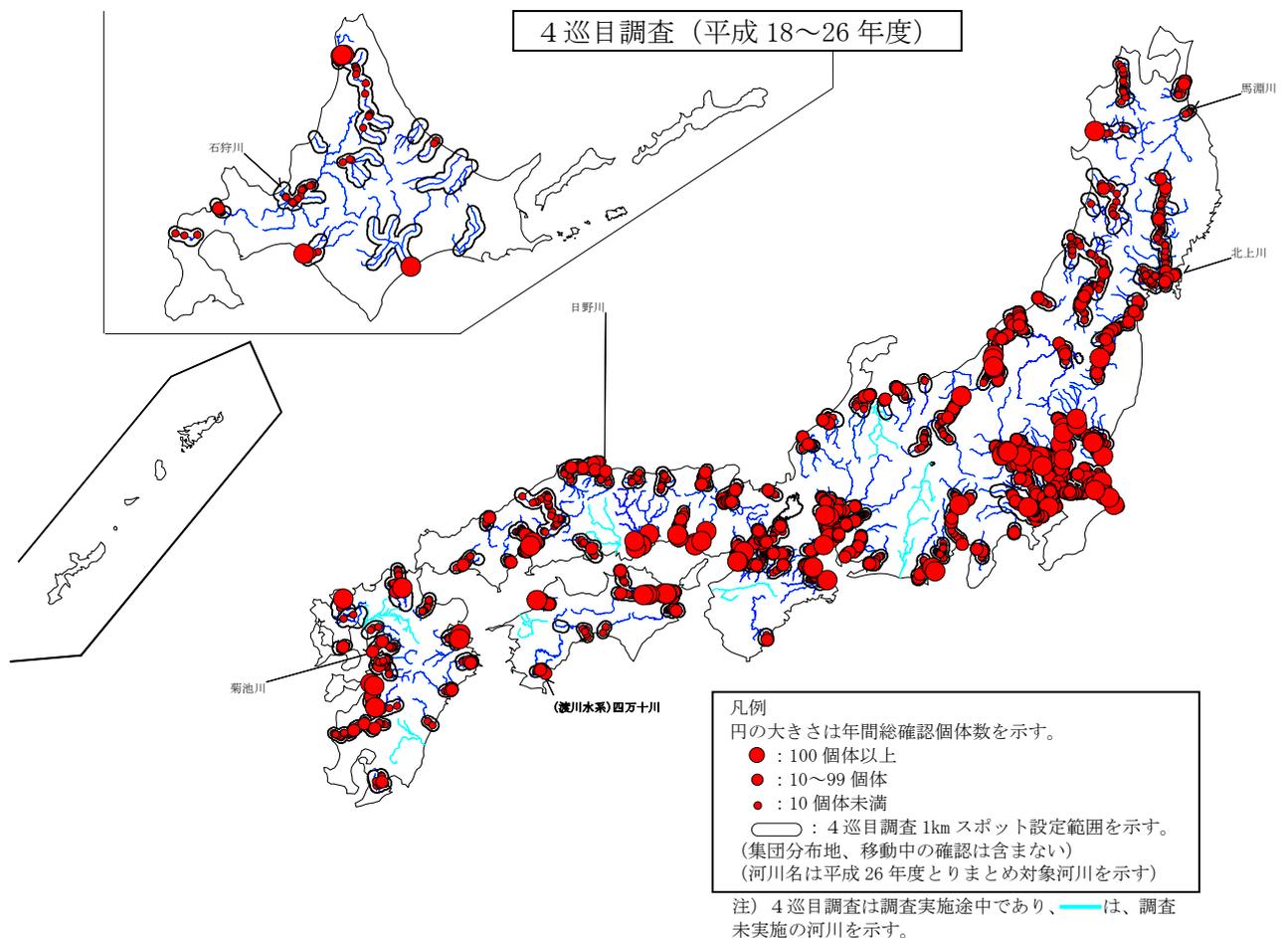
注1) 出典：内水面生態系管理手法開発事業報告書（カワウ等食害防止対策）. 2003. 水産庁.



カワウの確認地区 (1 巡目調査、2 巡目調査)



カワウの確認地区 (3 巡目調査)



カワウの確認スポット (4 巡目調査)

・ 猛禽類のミサゴは6河川すべてで確認

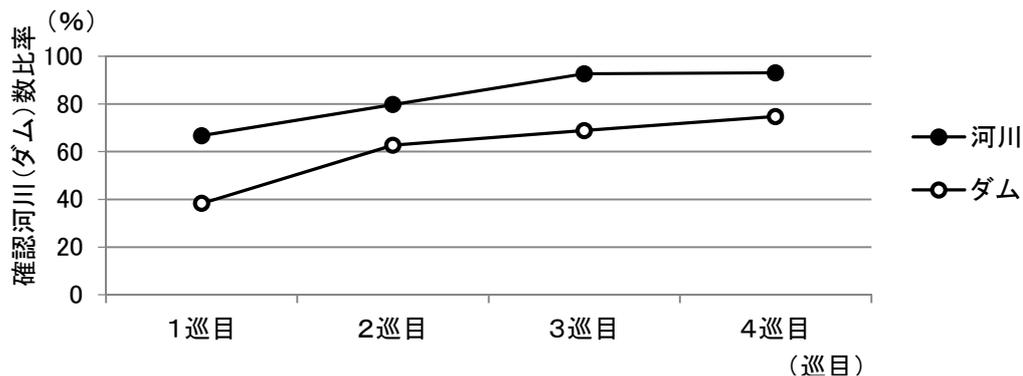
ここでは、水辺の食物連鎖の上位種として、魚を主な餌とし水辺に関係の深いミサゴの確認状況を整理しました。

ミサゴは、今回とりまとめを行った6河川すべてで確認され、おおむね河川の下流から上流までくまなく分布していることが分かりました。ダム湖での確認数が増加しており、内陸側へ分布の拡大傾向がみられました。

(資料掲載：4-40～4-41 ページ、4-42～4-43 ページ)

1～4巡目調査の確認河川数の比較

種類	1巡目 (81河川) (81ダム)	2巡目 (118河川) (83ダム)	3巡目 (122河川) (96ダム)	4巡目 (115河川) (99ダム)
ミサゴ	54河川 〔66.7%〕	94河川 〔79.7%〕	113河川 〔92.6%〕	107河川 〔93.0%〕
	31ダム 〔38.3%〕	52ダム 〔62.7%〕	66ダム 〔68.8%〕	74ダム 〔74.7%〕

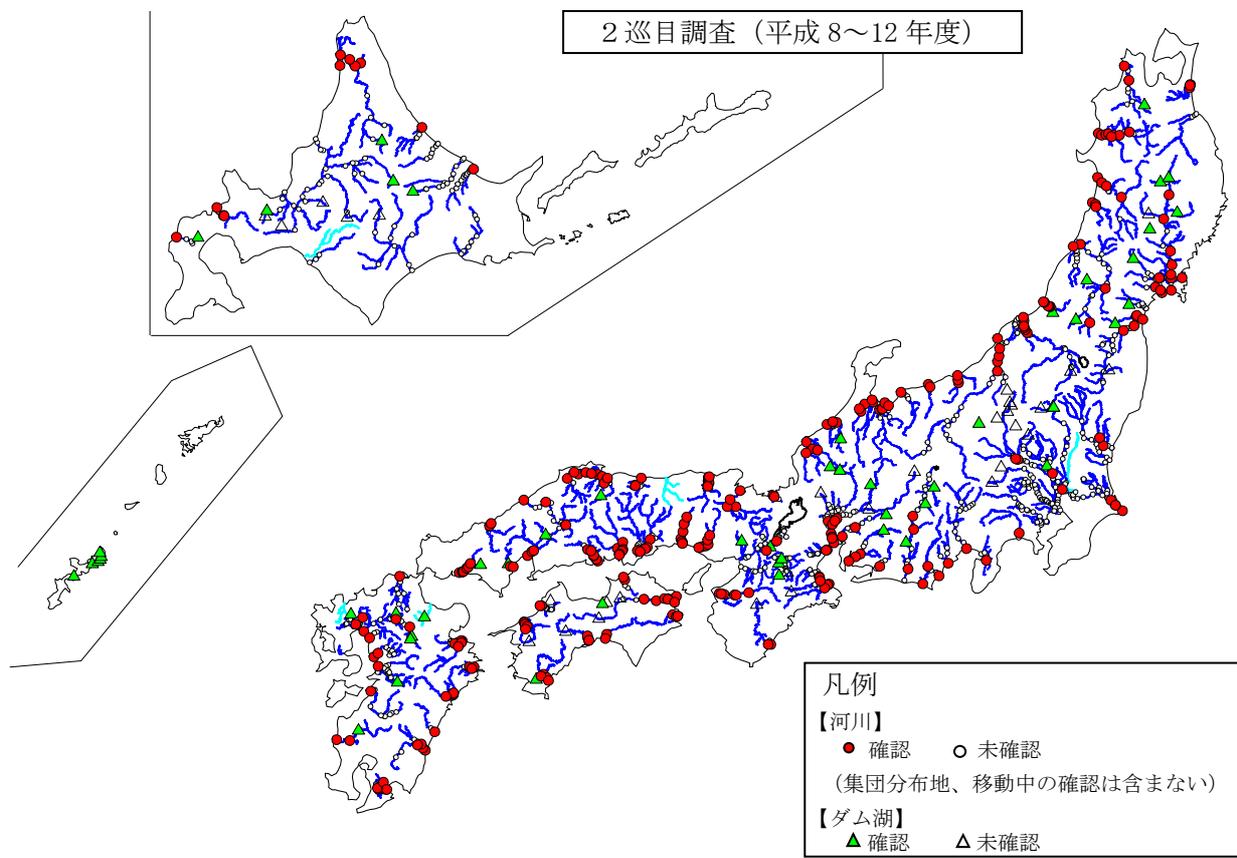
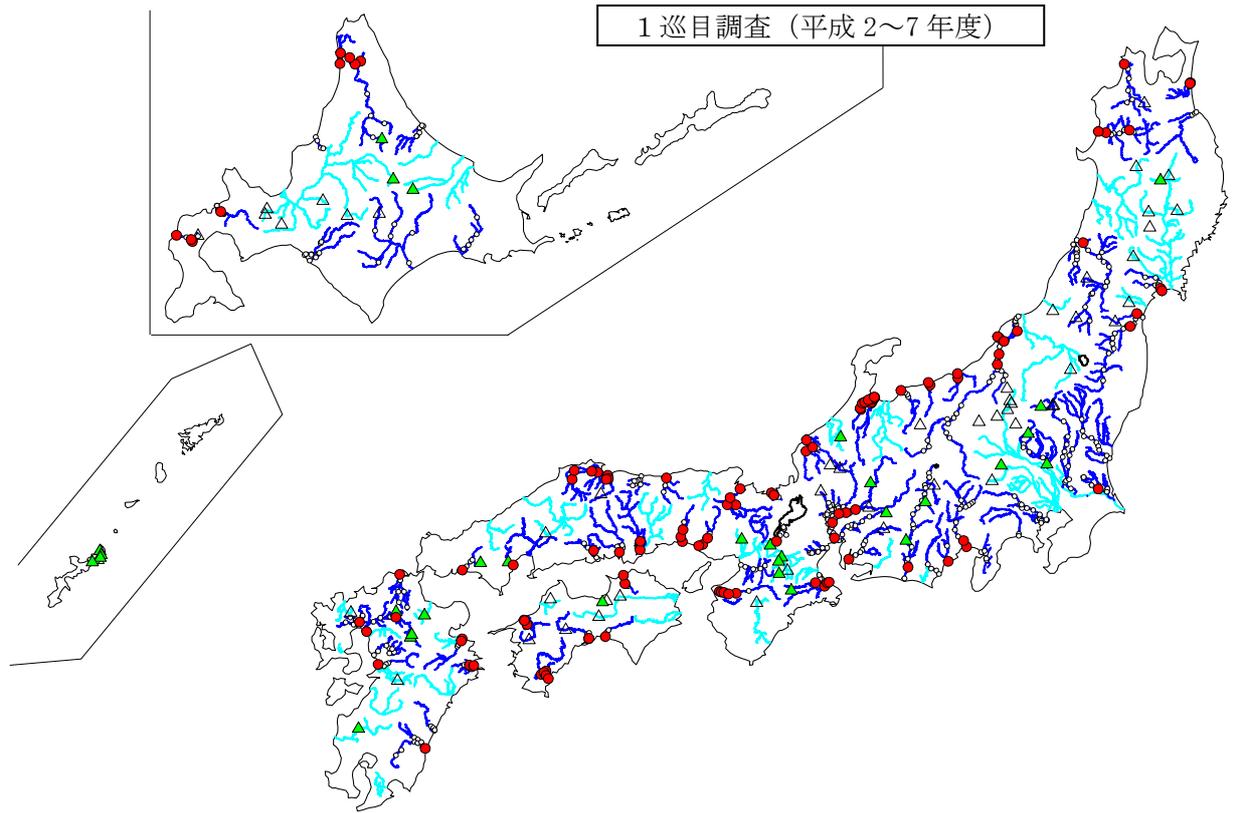


- ※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。
- ※ 1～3巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等について真正化され、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
- ※ ( ) 内は調査実施河川数を示す。
- ※ [ ] 内は確認河川数の調査実施河川数に対する割合 (%) を示す。
- ※ 4巡目からは、調査方法を調査地区対象のラインセンサス調査から河川全体の調査箇所における分布の確認を主としたスポットセンサス調査に変更した。

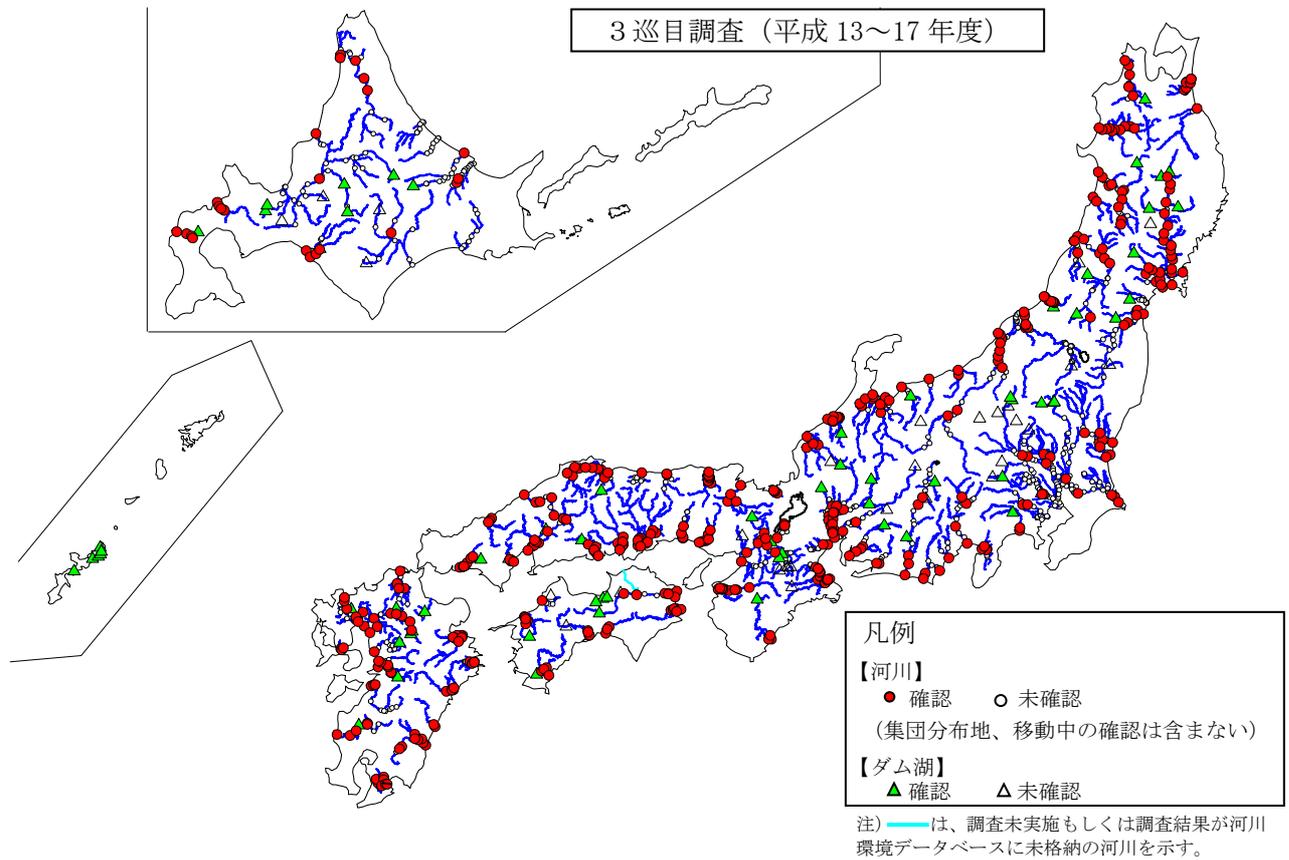
ミサゴは、魚を主な餌とする猛禽類で、河川や湖、海岸などに生息しています<sup>注1)</sup>。環境省のレッドデータブックでは準絶滅危惧種に指定されています。ミサゴは、今回とりまとめを行った6河川のすべてで確認され、おおむね河川の下流から上流までくまなく分布していることが分かりました。ミサゴが上流まで確認された河川は、採餌が行えるような広い水面や豊かな魚類資源を保った場所として注目できます。

1～4巡目調査全体での確認状況を河川、ダム湖を合わせて比較すると、1～3巡目では確認河川、ダム数が増加する傾向がみられました。また、4巡目調査は調査途中ですが、調査実施ダム湖数が増加しており、内陸部へ分布の拡大傾向がみられました。

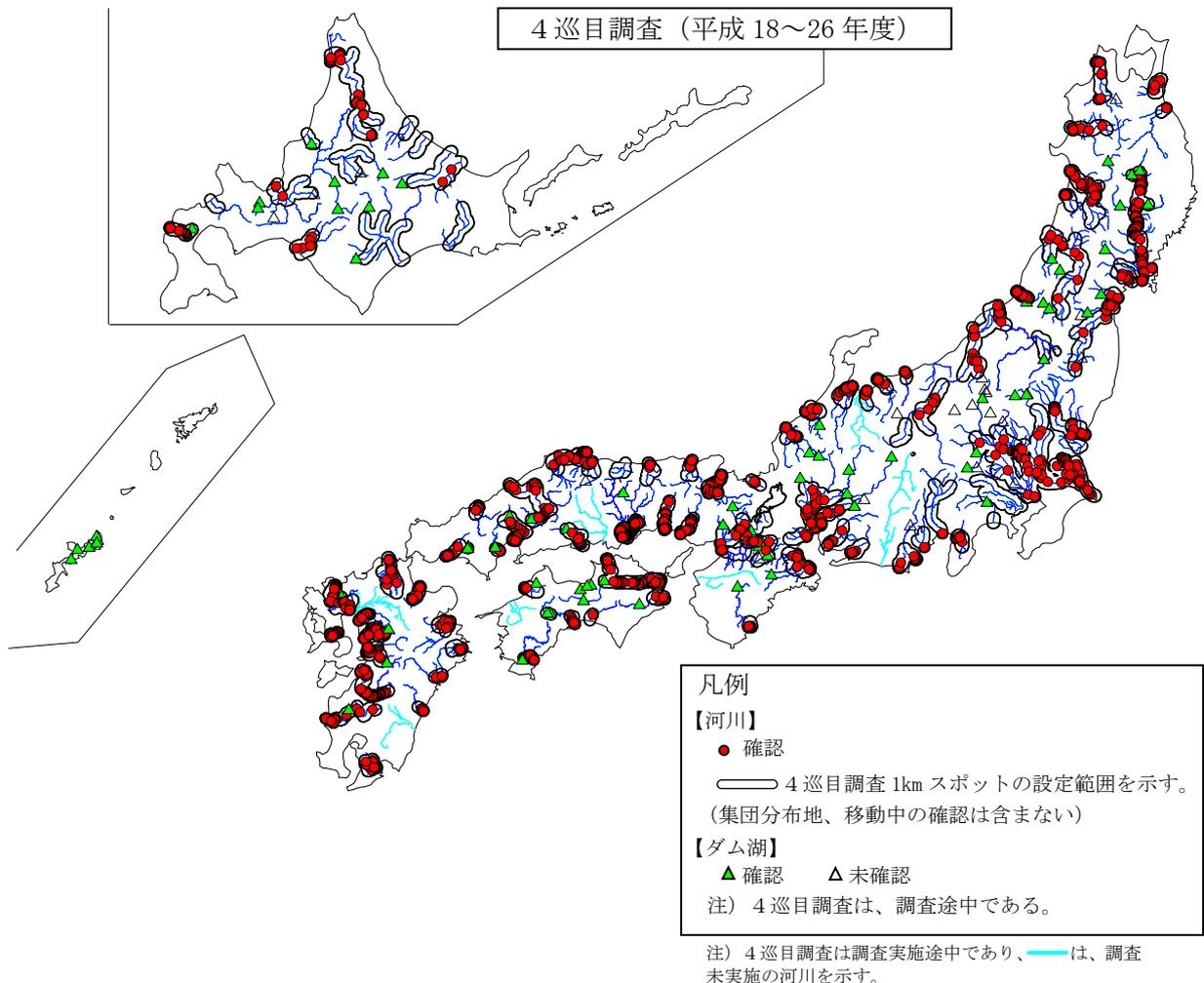
注1) 出典：原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>。1995。保育社。



ミサゴの確認地区 (1 巡目調査、2 巡目調査)



ミサゴの確認地区 (3 巡目調査)



ミサゴの確認スポット (4 巡目調査)